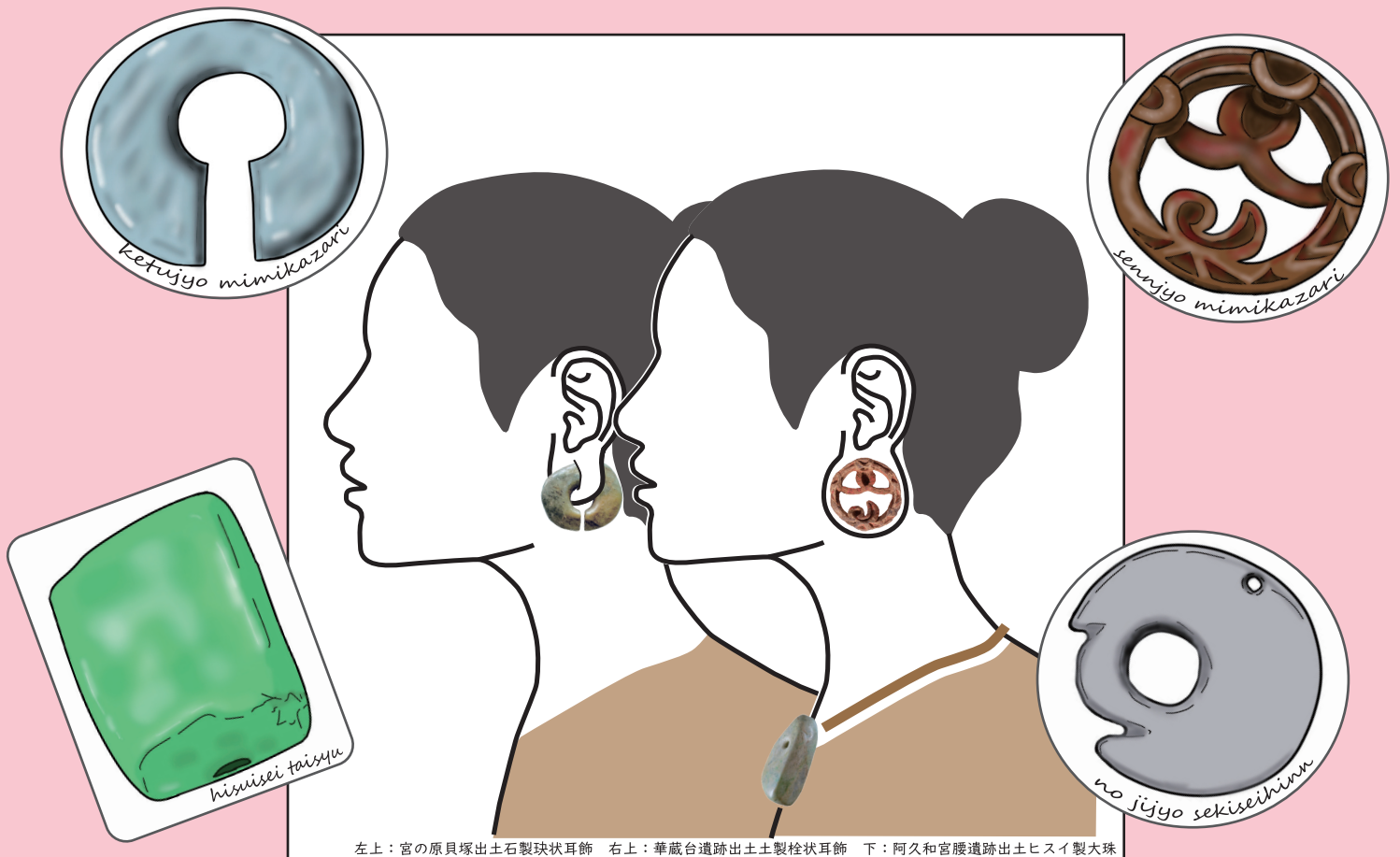


縄文時代のアクセサリー①

—石製品・土製品編—



キーワード：縄文時代・縄文海進・アクセサリー・耳飾・ヒスイ製大珠

約1万9000年前（旧石器時代）から約6000年前（縄文時代前期）にかけての温暖化により、大陸氷床が溶けて海水面が上昇したことで、現在より海岸線が内陸に入り込んでいました（縄文海進）。内陸に入り込んだ湾では砂泥が堆積し、やがて貝が豊富に採れる環境が形成されていきます。こうした豊かな環境のもと縄文人の「装う」意識が高まり石製や土製の玦状耳飾などのアクセサリーをつくるようになりました。その後、約5500年前（縄文時代中期）になると玦状耳飾はつくられなくなり、耳朶に開けた穴にはめ込む土製栓状耳飾に変わっていききました。また、この時期に横浜市域では新潟県糸魚川市周辺でしか採れないヒスイ製の垂飾もみつっています。約4500年前（縄文時代後期）になると気温が下がったことで生活条件が厳しくなり、人口が減っていききました。しかし、そのような中でも栓状耳飾はさらに発展し、美しい透かし彫りを施したりベンガラで赤く色をつけたり、中期よりもサイズが大きくより精巧なつくりになっていきました。

★今号のターゲット！

約15,600年前	縄文	約2,400年前	弥生	約1,700年前	古墳	592年	飛鳥	710年	奈良	794年	平安	1185年	鎌倉	1338年	室町	1573年	安桃土山	1603年	江戸	1868年	明治～現在
-----------	----	----------	----	----------	----	------	----	------	----	------	----	-------	----	-------	----	-------	------	-------	----	-------	-------

玦状耳飾の編年

類型	浮輪形	金環形	「有明山社」型	指貫形	円盤形・玦状	三角形	楕円形
時期							
早期	後葉 						
前期	末葉 	初頭 	中葉 	後葉 	初頭 		
中期					中葉 	後葉 	末葉
後期					初頭 		
					中葉 		

玦状耳飾編年模式図

(川崎保 2004 年「玉の類型編年」『季刊考古学』第 89 号より引用)

けつじょうみみかざり

玦状耳飾は約7500年前（縄文時代早期）に出現しました。石や粘土以外にも木や骨角を素材としたものもありますが、木や骨角は腐食してしまうため現在まで残っている数が少ないです。玦状耳飾の発生については、大陸などからの渡來說と日本列島での自生説の2つの説があり、現在は渡來說が主流となっています。左の図をみると、中央の穴が大きく環に厚みがある形から、次第に中央の穴が小さく環の部分が薄く平らな形に変化していくことがわかります。約5000年前（縄文時代中期）になると一気に数が減り、玦状耳飾はつくられなくなります。そして、減っていく玦状耳飾に代わって、土製栓状耳飾が増えていきました。

がんめんとして どぐう

顔面把手や土偶にみられる耳飾の表現



◀青ヶ台貝塚出土顔面把手



◀鴻巣市滝馬室出土
みみずく土偶
(所蔵・提供 東京国立博物館)
Image:TNM Image Archives

左の写真は青ヶ台貝塚でみつかった顔面把手です。顔面把手は、約5000年前（縄文時代中期）の勝坂式土器にみられる深鉢の口縁部につく顔の意匠を施した突起を指します。人面把手と表現されることもありますが、神や精霊など神聖な存在を表現している可能性があり、必ずしも人を表しているとは限らないため、現在は顔面把手と呼ぶことが多いです。顔面把手付きの深鉢は普段使いの土器ではなく、儀式や儀礼など特別な時に使用されたと考えられています。この顔面把手は片目が丸い線刻、もう片方がしずく形に穿孔が施されているのが特徴です。顔の両脇には2つの穴があけられており、この穴は栓状耳飾を表現していると思われます。

右の写真は東京国立博物館に所蔵されている埼玉県鴻巣市出土のみみずく土偶です。丸く囲まれた顔の形が鳥のミミズクに似ていることからこのように呼ばれています。耳の丸い部分が栓状耳飾の表現と考えられています。このように顔面把手や土偶から縄文時代の服装や装飾品を想像することができます。

せきせいけつじょうみみかざり

石製玦状耳飾

きたがわかいづか

④北川貝塚

だいさんけいひんつづき

都筑区にある第三京浜都筑インターの北側に所在します。この遺跡からは旧石器、縄文、弥生～古墳、平安時代の遺構と遺物がみつかっています。このうち約 6,000 年前（縄文時代前期）のお墓と考えられる P73 号土坑からは土器とともに滑石製玦状耳飾が発見されました。

滑石は比較的やわらかい石で加工がしやすいため、よく装飾品の素材として使用されますが、壊れやすい性質ももっています。壊れてしまった玦状耳飾は割れ目の近くに小さな孔をあけ、ヒモのようなもので繋げて補修したり、ペンダントのような垂飾に加工し直して大切に使用していたようです。



玦状耳飾

▲P73号土坑

土器を頭に被せて埋葬する「土器被り葬」の痕跡と考えられる伏せた深鉢のすぐ横から滑石製の玦状耳飾が発見されました。



◀石製玦状耳飾

P73号土坑でみつかった耳飾。割れ目近くに穿孔がみられ、補修していることがわかります。

どせいけつじょうみみかざり

土製玦状耳飾

なんぼりかいづか

③南堀貝塚

つづき

都筑区南山田三丁目に所在する約6000年前（縄文時代前期）の集落遺跡です。昭和30年の調査は『横浜市史』編纂事業に関するもので、多くの市民や若手研究者が参加していたようです。昭和59年になると港北ニュータウン建設に関わる発掘調査がおこなわれます。2つの調査では合わせて22軒の竪穴住居がみつかり、浅い窪地を囲うように弧状に形成されていました。右の写真は昭和30年の調査時に発見されたアクセサリーです。上の2つは玉、真ん中の2つは石製玦状耳飾を加工した垂飾、右下は石製玦状耳飾、左下は土製玦状耳飾です。土製玦状耳飾は横からみた形がソロバン玉のように丸みを帯びたひし形で、石製のものに比べて厚みがあるのが特徴です。



▲昭和30年発掘調査出土のアクセサリー

記録類がさまざまなところで保管されているため詳細な出土状況は不明ですが、縄文時代前期を中心とした集落であることから、これらの遺物も前期と考えられます。

どせいせんじょうみみかざり

土製栓状耳飾

けしょうだいいせき

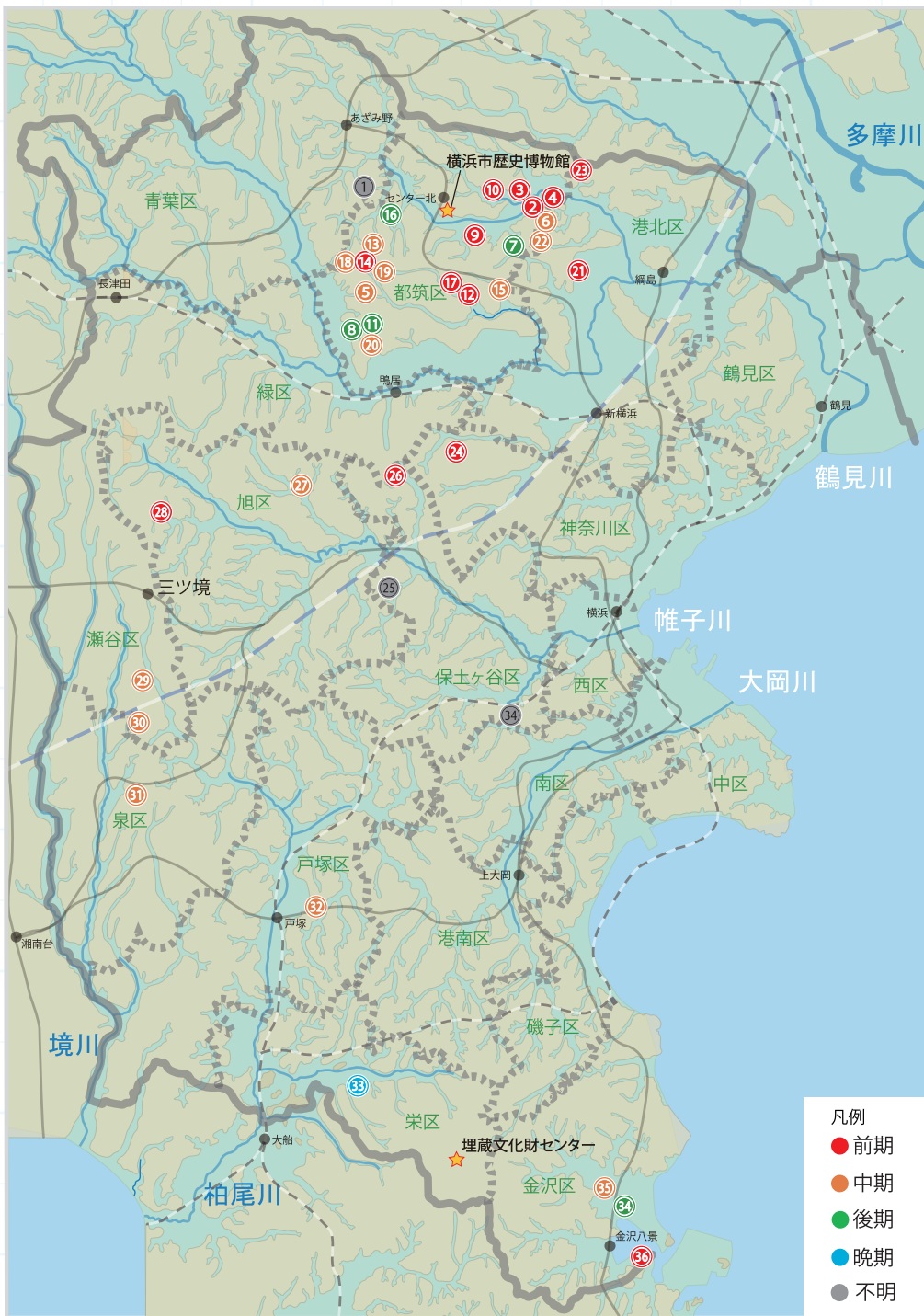
⑩華蔵台遺跡

都筑区荏田南に所在する約4400年前（縄文時代後期）～約2900年前（縄文時代晩期）頃に営まれた集落です。華蔵台遺跡では大量の栓状耳飾が竪穴住居などから発見されました。栓状耳飾は大きいものは滑車形耳飾、小さいものは耳栓とも呼ばれ、耳朶に穴をあけて装着し徐々に着ける耳飾を大きくしていくことで穴を拡張します。右上の2つの耳飾は同じデザインとなっていて、片耳ごとに異なるデザインが多い縄文時代では珍しく、左右対称になるようにつけていたのかもしれません。



▲華蔵台遺跡出土の栓状耳飾

大きさや意匠もさまざまな栓状耳飾がみつかっています。赤彩が施されているものもあります。



横浜市の縄文時代の土製・石製装飾品出土遺跡位置図

横浜市の縄文時代の土製・石製装飾品出土遺跡一覧表

No.	区	遺跡名	時期	装飾品種別									No.	区	遺跡名	時期	装飾品種別								
				耳飾				垂飾		玉類							耳飾				垂飾		玉類		
				玦状耳飾		栓状耳飾											玦状耳飾		栓状耳飾						
				石製	土製	石製	土製	石製	土製	石製	土製	石製					土製	ヒスイ製大珠	石製	土製	石製	土製	石製	土製	ヒスイ製大珠
1	青葉	京塚	不明								●3		19	都筑	高山	中期？		1？			●4				
2	都筑	権田原	前期					▲1					20	都筑	月出松南	中期					1				
3	都筑	南堀貝塚	前期？	1	▲1			3？		2			21	港北	宮の原貝塚	前期～中期	1	1		1	1		1		
4	都筑	北川貝塚	前期	1	1	1							22	港北	豊屋の上	中期					2？				
5	都筑	三の丸	中期				●1	●2	▲1	1		▲1	23	港北	寺谷戸	前期	3								
6	都筑	北川貝塚南	中期	1					1				24	神奈川	グミスギ谷戸	前期		1？							
7	都筑	神隠丸山	後期				4			1			25	保土ヶ谷	川島団地	不明				1					
8	都筑	原出口	後期				1	1					26	保土ヶ谷	笹山貝塚	前期	1								
9	都筑	茅ヶ崎貝塚	前期	▲2				1		▲4	▲1		27	旭	上白根おもて	中期				1			1		
10	都筑	西ノ谷貝塚	前期	▲1				2					28	旭	長山	前期	1			1					
11	都筑	川和向原	後期					1					29	瀬谷	阿久和宮越	中期								2	
12	都筑	向原	前期？					1					30	瀬谷	阿久和蟹沢	中期								1	
13	都筑	大高見	中期				1					●1	31	泉	泉警察遺跡	中期				1					
14	都筑	小高見	前期？							●1			32	戸塚	舞岡熊之堂	中期				1					
15	都筑	大熊仲町	中期		1		3	3		2		▲1	33	栄	桂台北	晩期？				●1		1			
16	都筑	華蔵台	後期～晩期			1？	▲46					▲1	34	金沢	称名寺D貝塚	後期				5					
17	都筑	石原	前期～中期 中期～後期				1	●2					35	金沢	青ヶ台貝塚	中期～後期				1	2				
18	都筑	小丸	中期					3					36	金沢	室ノ木	前期～中期		1							

●埋文センター常設展示 ▲横浜市歴史博物館常設展示 ？判然としない

●埋文センター常設展示 ▲横浜市歴史博物館常設展示 ? 判然としない

北部に遺跡が集中しているのはなぜ？

1970年代の高度経済成長期におこなわれた港北ニュータウン建設のために、現在の都筑区を中心とした地域で大規模な発掘調査がされました。そのため、北部はこれまでにわかっている遺跡数が多いのです。

縄文時代、綱島駅周辺は海だった！？

縄文海進の最盛期、鶴見川流域では第三京浜道路付近まで海が入り込んでおり、内湾（古鶴見湾）が形成されていたと考えられます。約6000年前（縄文時代前期）頃の遺跡の多くはこうした内湾の台地上に立地しています。

「縄文海進」についてもっとくわしく知りたい！
⇒「埋文よこはま」37号へ！

せいたいしゅ ヒスイ製大珠

あ く わ みやこしいせき ②阿久和宮腰遺跡

現在の瀬谷区阿久和東宮ノ腰公園の場所に所在する遺跡です。約5000年前（縄文時代中期）の環状集落が確認されています。環状集落とは竪穴住居を環状に配置し、中央に空間をあけて形成される集落のことです。阿久和宮腰遺跡では、この環状集落が時期が下るごとにその環が徐々に小さくなっていく傾向が確認されています。

右の写真は環状集落の中央部にあったお墓と考えられる土坑からみつかったヒスイ製大珠です。大珠は概ね5cm以上のものを指して呼ばれています。ヒスイは日本列島では新潟県系魚川市周辺の地域でしか採れない貴重なものです。ヒスイ産地から遠く離れた地で同じ遺跡から2つもヒスイ製品が見つかることはとても珍しいです。



▲I 80号土坑出土ヒスイ製大珠

じ じょうせきせいひん の字状石製品

ごんたっぱらいせき ②権田原遺跡

都筑区早淵三丁目に所在し、周辺の北川表の上遺跡や北川貝塚、大原遺跡と合わせて北川谷遺跡群と呼ばれています。権田原遺跡は旧石器、縄文、弥生、古墳、奈良、平安時代の遺構と遺物が見つかり、丘陵の上で断続的に人々の生活が営まれてきたことがわかっています。

右の写真は FJ42号土坑からみつかった「の字状石製品」です。約5000年前（縄文時代中期）の縄文土器片とともに発見されたため、この石製品も同じ時期であると考えられます。の字状石製品は、その名の通りひらがなの「の」に似た形をしていることから名付けられました。全国でも20数例しかみつかっておらず、用途や性格はまだわかっていません。関東、中部、北陸地方を中心に、約5400年前（縄文時代前期）からみられるようになります。ヒモを通す穴があることから、首や腰に下げていたと考えられます。



▲FJ42号土坑出土の字状製品
滑石製で、他の遺跡でみついているものと異なり、尾部の切れ目と別に環部の一部にも粗い挟り込みがあります。

よそお 縄文人にとって装うとは？

縄文人は髪飾や耳飾、首飾、腰飾、腕輪など実に多彩なアクセサリーを身につけていました。なかでも耳飾は耳朶に穴をあけて耳飾を通したりはめ込みますが、これは痛みを伴う行為でもあります。このことから単純に装うという以上の意味があったと考えられています。石製塊状耳飾には補修した痕が見つかることが多く、直しながら長い間使用していたことが想定されます。また、遺跡から出土する数は少ないためムラの長や祭祀儀礼を司るような人物が身につけていたのかもしれませんが、土製栓状耳飾は様々な大きさが存在し、成長するにつれ通過儀礼として大きなものに付け替えていき成長段階を表していた可能性があります。各地域でそれぞれ共通する文様をとりいれているものもあることから、所属する集団を表現していたと考えられています。



埋文センター新刊情報

発売中!

横浜市栄区

上郷深田遺跡発掘調査報告書

上郷深田遺跡は横浜市栄区上郷町にある、県内唯一の古代製鉄遺跡です。昭和61・62年に道路建設に先立って発掘調査がされ、この度、30年以上の歳月を経て報告書を刊行する運びとなりました。

最初期の7世紀中葉～後半は竪穴建物が数棟建てられるのみでしたが、続く7世紀末～8世紀初頭に3基以上の製鉄炉（箱形炉）が操業を開始し、最後の8世紀前半～中葉には6基の製鉄炉（竪形炉）が展開するとともに、**鑄造工房・鍛造工房**が営まれました。鑄造工房周辺からは土製鑄型の破片が出土し、炉の金属分析から、鉄だけではなく銅製品の鑄造が行われていたことが明らかになっています。

古代相模国鎌倉郡の中核から出土する畿内系暗文土師器が顕著に出土し、横浜のみならず、東国の古代史を語る上で重要な遺跡です。多くの古代史の専門家が論考を寄せた渾身の報告書をぜひご覧ください。

発売中!

港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 55

神隠丸山遺跡Ⅲ 貝塚編・自然科学分析編

神隠丸山遺跡は縄文時代中期と後期の環状集落です。今回はこの後期の住居の跡に作られた貝塚の報告です。この貝塚は、縄文時代後期の内陸部に位置する横浜市内では珍しい貝塚です。貝層はヤマトシジミやハマグリ、ハイガイなどで構成されています。この時期、周辺では「海退」といって、海が後退する現象が起きています。こうした環境変動の中、環境に適応し、様々な食糧資源を利用する縄文時代の人々の**生業戦略**がみえてきました。

報告書では**自然科学分析**を通して、当時の遺跡周辺の環境も復元しています。是非お手に取っていただいて横浜市内の貝塚の「ここまでわかった!」を体感してみてください。



上郷深田遺跡
17号炉調査風景

COMING SOON!

「シリーズ 横浜の遺跡」

vol 3. 北川谷遺跡群

北川表の上 北川貝塚
権田原遺跡 大原遺跡

一土器から見た南関東・弥生後期の世界一

北川谷遺跡群は港北ニュータウン遺跡群の中にあり1980年代に発掘調査されました。大塚・歳勝土遺跡と同じ弥生時代中期の環濠集落として権田原遺跡が著名ですが、弥生時代後期から古墳時代前期にかけては、周辺の複数遺跡を集落が移動することが、出土土器による詳細な編年を組むことによって明らかになりました。この当遺跡群の編年は「北川谷編年」として学界に知られるようになり、長らく混乱していた南関東の後期土器編年や土器様式図を見直すきっかけとなりました。本書は、その研究成果をもふんだんに盛り込んでいます。

考古学が、発掘による新発見だけではなく、地道な整理作業やそれを踏まえた精緻な研究もその醍醐味であることを示した一書です。ぜひご期待ください!



神隠丸山遺跡出土
鹿角製装身具

編集後記

今号は縄文時代の装飾品のなかでも土製品と石製品について取り上げました。現代人にとってアクセサリは装う以外の意味はないことが多いでしょう。しかし、縄文人にとっては自分のステイタスやアイデンティティを表すもので、特別な意味を持っていました。今回取り上げたもの以外にも骨製や鹿角製、貝製、木製などさまざまな材質の装飾品があります。今回は紙面の都合で掲載できませんでしたが、いつかパート2として出したいと考えています。まだまだ奥深い縄文時代の装飾品をお楽しみに! 次号は記念すべき50号です。さらに埋文センターを知っていただけるような企画を考えています! Y.N

横浜の埋蔵文化財について発信しています。ぜひ登録をよろしくお願いいたします!

X (旧 Twitter)

Youtube



《埋蔵文化財センターのご案内》

JR根岸線「港南台」駅

2番バス乗り場より神奈中バス港36・86系統「上郷ネオポリス」行きまたは港40系統「栄プール」行き、「上郷ネオポリス」下車徒歩1分

京浜急行「金沢八景」駅

3番乗り場より神奈中バス金24・25系統「上郷ネオポリス」行き「上郷ネオポリス」下車徒歩1分

- ・見学等の施設利用は、平日の9～17時までとなっています。
- ・団体の施設利用にあたっては、事前にご連絡ください。



埋蔵文化財センター HP

埋文よこはま 49

発行日 2025年3月31日

編集・発行 公益財団法人 横浜市ふるさと歴史財団

埋蔵文化財センター

〒247-0024

横浜市栄区野七里 2-3-1

TEL. 045-890-1155

FAX. 045-891-1551